

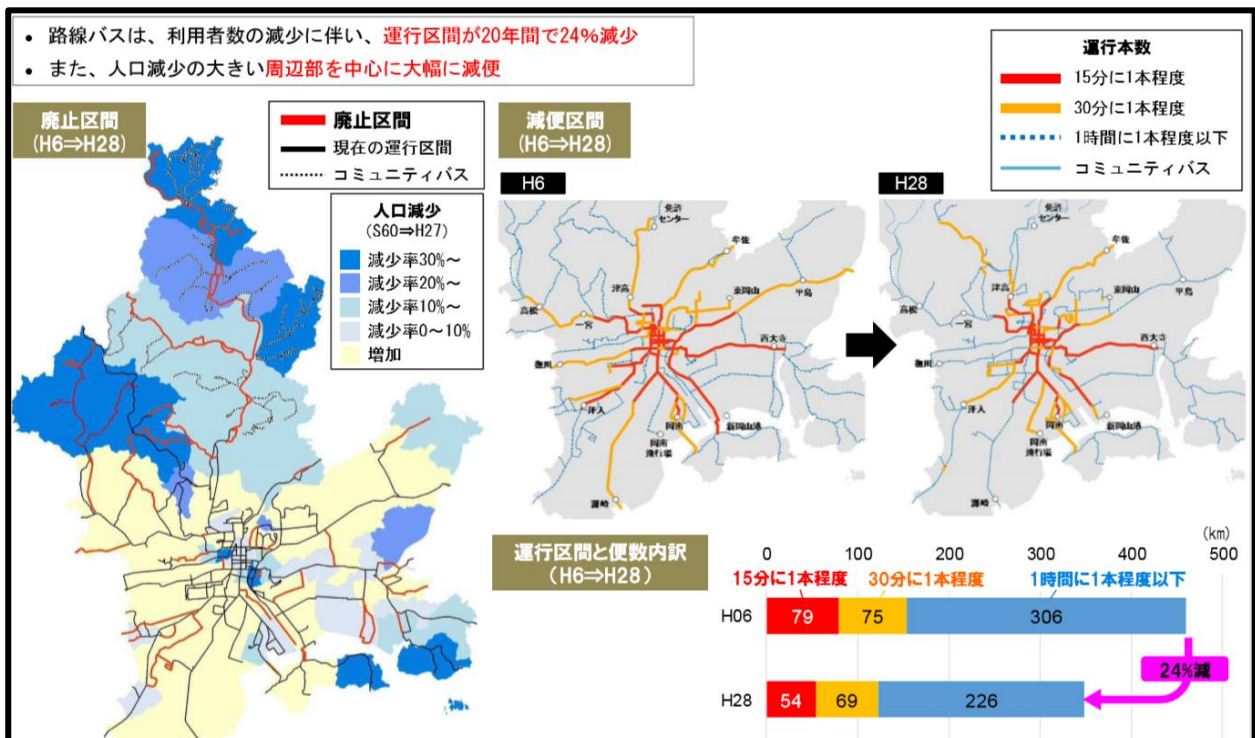


コロナ不況は、

100 年に 1 度の変革期②

■自由に移動したい、というのは全ての人々が持つ権利だ。だから地方では1人1台の割合で車を持ち、公共交通などなくとも自由に生活できるようになった。ゆえに公共交通がなくなっても日々の生活に支障は出ないと思われている。これが実態ではないか。確かに公共交通は不便だ。決まった時間にしか動かないし、わざわざ駅やバス停まで行かなければならない。だが、そんな公共交通に支えられて初めて生活できる人々もいる。車を運転できない若年者や高齢者をはじめ、社会的機能を維持するために今も働いてくださっている市民の皆様だ。

■交通事業者の悲鳴はとどまるところを知らず、JR 西日本では約 1400 人の社員の一時帰休を実施すると発表があった。また、JR 四国に至っては 6 月末に資金が尽きる可能性を示唆しており、影響が長引けば赤字路線の廃止議論が加速する恐れがあるとの見方もある。前号でも述べたが、商売としての交通はもはや限界を迎えている。営利をベースにする民間企業のみ依存している現在の状況では、赤字路線を継続的に支えることは出来ず数年後には消滅している可能性がある。実際に岡山市周辺では長期的に見てみると路線の休止や減便が相次いでおり、これらの地域では人口の減少も加速している。これらの影響が拡大していくことは、社会システムの根幹そのものを揺る



※岡山市地域公共交通網形成協議会 第1回協議会に資料より

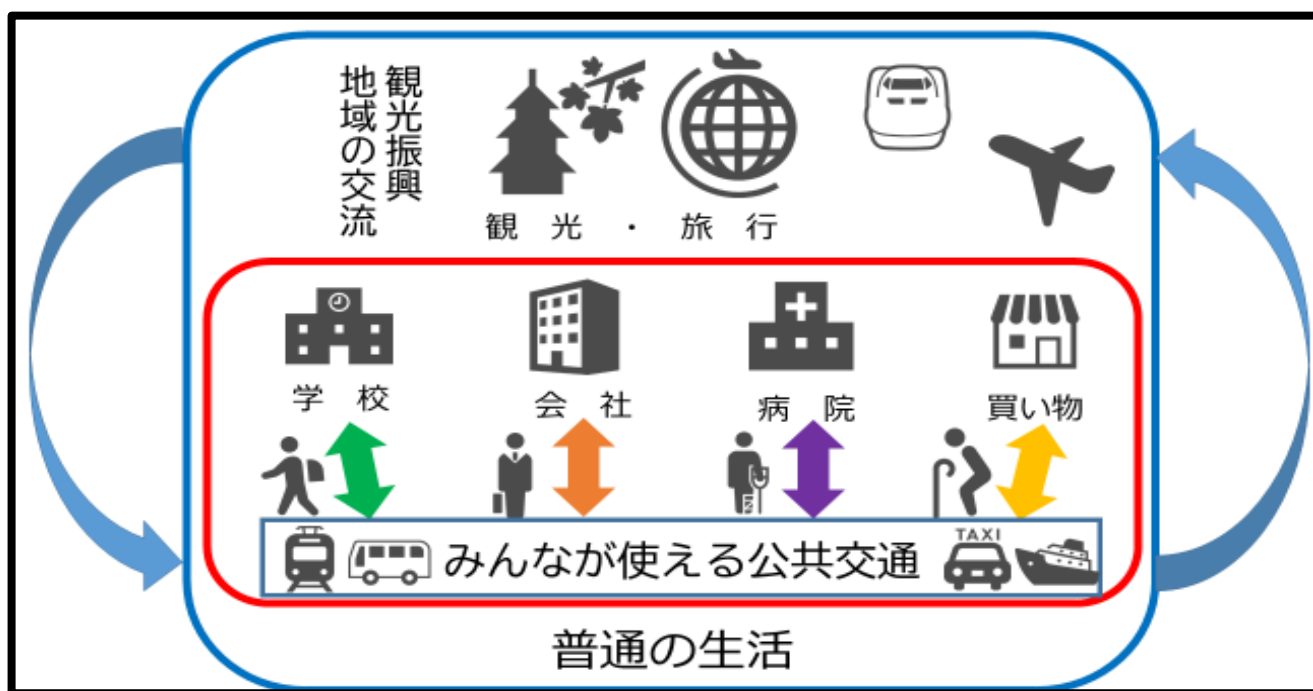
がし、地域そのものが消滅しかねない。これを機に少しずつ社会を変えていく必要がある。

■では、具体的に何をすべきか。実はそこまで難しくはない。1人1人がほんの少し行動を変えるだけで十分支えることが出来る。例えば、単純な計算だが岡山市民70万人から年間1人1000円を公共交通に充てるだけで7億円の資金が集まる。実はこれだけで多くの赤字路線は存続させることが出来る。そして岡山市の予算を見てみると、道路予算と公共交通関連の予算には5倍以上の差がある。これらはいくまで一例であるがバランスを精査したうえで、水道や図書館などと同様に市民生活になくてはならない公共交通の役割を再認識し、市民1人1人が関心を持ち経済的支援も含めて協力をしていく必要がある。

	道路予算	公共交通関連
岡山市の令和2年度予算(案)	37億800万円	7億1700万円(駅前整備で5億5900万)

※令和2年度予算案より。公共交通関連は路面電車乗入による駅前整備事業・地域公共交通再編等の推進・鉄道の利用環境改善・路面電車のネットワーク化・新たな生活交通の確保事業の合計。

■本来、お出かけは誰にとっても楽しいものはずだ。自分の行きたいところに行ったり、誰かと会ってお話をしたり、知らないことを知る。そんな「ごく普通の生活」が送れる事のありがたさをすべての人が実感しているだろう。そのためには誰もが安全で快適に移動できる手段が必要不可欠だ。ごく普通の生活が送れるからこそ、旅行が出来たり、将来に夢を持てる若者が地域に残ってくれる。その為には、車だけでなくあらゆる人の生活を支える公共交通はなくてはならない存在だ。誰かが何とかしてくれる・・・そんな「無関心」という病から抜け出す必要がある。



※公共交通は「商売道具」ではなく「地域の財産」！みんなで支えることで、生活することが出来る、観光客をはじめ多くの人を呼び込んでくれることが出来る！

NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail: info@racda-okayama.org

URL: <http://www.racda-okayama.org>

RACDA

検索

